

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2670500376
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
事業所名	洛和グループホーム久世
所在地	京都市南区久世上久世町34-2 (電話) 075-925-0210

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 31 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	15.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	470 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,670 円	

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	3 名	要介護2	5 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	3 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院、丸太町クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都府で医療・福祉を展開する大型法人を母体を持つ当該ホームは、普通の民家のような外観で、玄関先には季節の花が植えられ大変親しみやすさを感じます。職員は一人ひとりの生活歴や特技を把握し、入居者に大正琴を演奏して頂きみんなで歌を歌ったり、花屋から届けられる花で生け花を楽しんだり、献立を一緒に考えたりと、個々の思いやペースを大切にしながら支援しています。ホーム内は笑い声が絶えず、入居者は職員と共に理念にも掲げられているように“日々楽しく”過ごされています。また、法人としての研修体制や医療連携等が整い、バックアップ体制があり、それを基盤にチーム作りがなされて、入居者、家族の安心につながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となっていたホーム独自の理念については、職員全員で話し合い、“日々、楽しく”と定め、毎日の生活の中で実践に取り組まれています。また、ホームでの暮らしを家族に知っていただけるよう写真入りの様子がよくわかる冊子を作成し、配布しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を振り返りと気づきの機会として、職員全員で取り組んだことで、入居者がより安全で、安心して生活していただけるように急変時の対応や事故防止の訓練など具体的な改善目標を掲げて取り組まれています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、入居者と家族以外に行政区の担当者や、地域代表者、地域包括支援センター職員とで構成され、入居者の写真を交えた日々の暮らしや行事報告を行ったり、職員紹介や待機者等の現状などを報告しています。出席者より意見をいただく良い機会になっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際や電話、運営推進会議での意見交換などで、意見や要望を表す機会を設けています。また、家族に対し年2回職員の対応や、ホームの環境等についてアンケート調査を実施し、ホームの運営に反映されています。外部に対しても、苦情対応窓口について、書類に記載し案内しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する畑が近所の方との交流の場となっています。地域資源を利用したり、民生委員や職員家族の紹介などで地域の夏祭りや小学校の発表会、保育園の運動会などに参加するなど積極的に地域と交流を図っています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とともにホーム独自の理念である「日々、楽しく」が掲げられており、地域の中で楽しく暮らしたいという職員全員の思いを込めて作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は新人研修でも説明し、個人の名札の裏にもあり、常に意識するように努めている。また、毎月のカンファレンスや会議時に理念にそったケアについて話し合い、個別のケアプランに反映されているかを振り返っている。	○	法人の理念とともに、ホームの思いを理解していただき、日々楽しく暮らせることを地域の方々との共通の目標となるよう、ホーム独自の理念についても誰からも見える場所に掲げられることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	畑を通して近所の方との交流や地域資源を利用したり、民生委員や職員家族の紹介などで地域の夏祭りや小学校の発表会、保育園の運動会などに参加するなど積極的に地域と交流を図っている。	○	今後さらに交流を深められるよう、地域の方を招いてホームで夏祭り等の開催を考えられている。地域の方々にホームを知っていただけるような取り組みの実施が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義を理解し、職員の意識を高め、気づきを増やしサービスの向上につなげるべく、自己評価は職員全員で実施し、検討している。また、前回の評価を受け、職員間で話し合い、地域への取組みなど改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者と家族以外に行政区の担当者や、地域代表者、地域包括支援センター職員とで構成され、入居者の写真を交えた日々の暮らしや行事報告を行ったり、職員紹介や待機者等の現状などを報告している。出席者より意見をいただく良い機会になっている。	○	家族にも積極的に参加して頂く声掛けや議事録を家族全員に送付されている。今後、運営推進会議の定期的な開催が期待される。

洛和グループホーム久世

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南区の連絡調整会議を通して、行政担当者と交流する機会があり、情報を得ている。また法人を通して行政担当者と連絡を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の入居者の暮らしぶりや健康状態は、面会時や電話にて報告している。その他日々の状態がわかる介護チェックシートを手紙を添えて送付している。また、運営推進会議の資料として配布したホームでの行事の様子や暮らしぶりをまとめた冊子を郵送している。金銭管理は毎月領収書を添えて報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として、年2回家族に対し職員の態度や対応、居室や供用部分の環境などについてアンケートを実施している。アンケートから得たご家族の意見や希望をもとに、問題点を明確にし、ホームの運営や、改善に努めている。また、苦情対応窓口について書類に記載し案内している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係を大切にされており、異動は最小限に留めるよう配慮している。異動のある場合は、引き継ぎ期間を設け、入居者に影響が出ないように配慮している。また、管理者は職員に対し、意見や希望が言いやすい雰囲気や、働きやすい職場環境になるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修として職員の経験に応じた段階的な計画があり、実行されている。また、実践者研修や区の研修会、グループホーム協議会等の外部研修にも参加し、職員の質の向上に努めている。また、研修内容はホーム内で伝達研修を実施し、全職員にも周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区の連絡調整会議にて意見交換などがあり、他の事業所との情報交換や交流の場として、職員が交代で参加している。認知症実践者研修を受講することで他施設の見学などをする機会もあり、情報交換の場となっている。また、法人内のグループホームとの交流会などを通じて常に質の向上に向け積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気を覚えてもらう為、入居前にできる限り家族やご本人に来てもらい、入居者と過ごす時間を設け、ホームに馴染んで生活できるかなど確認している。入居時にはセンター方式のシートを活用し、家族を交えてより具体的に相談し、また、家族と一緒に泊まって頂きながら徐々に生活に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に昔話や畑仕事や生け花、料理の方法などを教えて頂いたり、職員と一緒に掃除や食事作りなどを行うことで、日々支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を基に生活歴や思いを把握するように努めている。また、困難な場合は以前の状態などをご家族に伺ったり、その時の表情や仕草などを気持ちシートに書き込み、職員で話し合いながら思いを把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を用いて、本人の気持ちや家族の希望をアセスメント分析シートに写し、24時間シートを作成している。3ヶ月ごとにカンファレンスを実施し、家族や医師、看護師の意見も取り入れながら、一人ひとりに合った介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、状態に変化が生じた場合は、医師や看護師等必要な関係者と相談し、随時計画を見直し、家族同意の下プランを変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への同行や往診、訪問マッサージの支援、美容院や外食、買物、昔よく行った所へ行くなどの個別外出等その時々々の要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞いており、以前からのかかりつけ医を継続している方もおられ、往診に来て頂き、家族支援の下24時間連絡がとれる体制をとっている。また、ホームのかかりつけ医や看護師の往診、訪問があり24時間の連携体制が取られ、訪問歯科の支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期への対応、看取り指針の説明を行っている。本人の希望にそって家族や医師と相談しながら、状態に応じた支援ができるように支援していく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、言葉掛けやプライバシーの保護について常に意識し、耳元で声掛けをしたり、命令口調にならないように努めている。また、個人情報は事務所の鍵付きの棚で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間などは決めず、その方にあわせた支援をしている。また、入浴時間についてもその時の気持ちを大切に、無理強いせず自然な流れの中で希望に添った支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞きながら献立を決定し、調理や盛り付け、配膳、後片付けなど出来る事を一緒に行っている。職員は入居者と一緒と同じ食事をとりながら、楽しい時間となるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にそって、朝に入られる方や夜寝る前に入られる方、毎日の入浴など支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片づけ、庭掃除、新聞取りや得意だった大正琴を披露し、皆で歌を歌ったり、生け花の花選びから手伝っていただきたくなど、生活歴や個々の得意なこととして頂きたい事を引出せるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ外出出来るように支援しており、散歩や買い物その他、ホームの畑や駐車場に出て外気に触れる時間を作っている。また、季節毎の外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りを徹底し、日中は鍵を掛けないケアを実践している。玄関にはセンサーが設置され、外出される場合には職員と一緒に付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月毎に避難訓練が実施されており、夜間想定での訓練も行われている。また、年に1回、消防署の指導の下での訓練も行っている。地域への働きかけは今後の課題である。	○	地域との日々の交流や運営推進会議を通して、日頃より協力を得る働きかけが今後期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録し、水分摂取量は必要な方のみ記録をしている。献立は、入居者の希望を聞きながら栄養バランスを考えて職員が作成し、検食簿を記録し、法人の栄養士によるチェックを受けている。一人ひとりの状態に合わせて、きざみ食などにも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風の家具や木目調の天井は落ち着いた雰囲気であり、温かみもあり、安らぎを感じさせる空間となっている。食堂は対面式になっており、入居者と一緒に調理ができるように工夫されている。また、リビングには季節の花を飾ったり、ゆったりと座れるソファが置かれ、テレビを見たり、新聞を読んだりするくつろぎの場になっており、畳コーナーも設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れたタンスや机、ソファ、鏡台、大切にしている仏壇や写真などを持って来て頂き、状態に合わせた支援がなされている。また、畳で生活される方にも対応できるようになっている。		